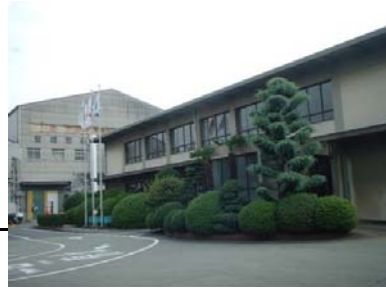


久宝寺事業センター

1. 事業概要

住所	大阪府八尾市神武町2番35号	
従業員数	395名	
敷地面積	38,921㎡	
事業内容		



久宝寺事業センター(以下事業所)の発足は、昭和48年。それまでクボタ創業の地である船出町工場(大阪市内)で生産していた計量機器、自動販売機事業の飛躍の拡大をはかるために、現在の大阪府八尾市へ移転したのが始まりです。昭和52年には粉碎機器部門が枚方製造所から移管され、以来、計量機器・自動販売機・粉碎機器の3つの事業が当工場の中核を形成してきました。

その後、昭和60年には電子機器の組立部門が発足。さらに昭和61年にはK-CADの開発が行われるなど、時代の脚光を浴びるハイテク分野への積極的な事業展開を推進しています。一方、事業が拡大した自動販売機部門は、平成元年に新しく建設された竜ヶ崎工場(茨城県)へCAD事業はグループ会社のクボタシステム開発(株)に移管されました。

現在では、計量器や精米機などの電装機器事業及びその関連会社である(株)クボタ計装関西支社、そして、破碎機や選別機を中心としたリサイクル関連事業を担当するクボタ環境サービス(株)、汚水をきれいに蘇らせる「液中膜」事業の製造・サービスを担当するクボタメンブレン(株)が業務を行っています。

主要製品

(1)株式会社クボタ 電装機器事業部 精密機器事業ユニット

計量機器関連事業

<標準はかり>



中・大型 台はかり



デジタル台はかり



ホイストスケール



充填機専用型 指示計

<トラックスケール>



指示計

トラックスケール

久宝寺事業センター

計量システム関連事業

<LPG充填システム>



回転式ACAD型充填機

<粉粒体供給システム>

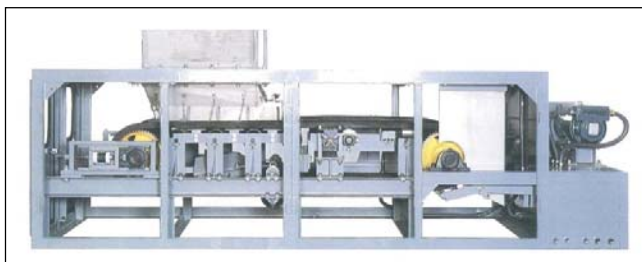


ペルトウェイングフィーダ



カセットウェイングフィーダ

<産業用はかり>



ポイドメータ



フレコンボックスケール

制御システム事業



クリーン精米屋



小型色彩選別機



粒体異物選別機



フルーツセレクター・ボイスガイド

(2)クボタ環境サービス株式会社



マスチフ
(一軸破碎機)



アイダル
(縦形回転式破碎機)

(3)クボタメンブレン株式会社



浸漬型膜分離装置



膜カートリッジ

久宝寺事業センター

工場変遷(沿革)

昭和48年(1973) 9月22日	船出町工場より衡器・計量機器、自動販売機事業が移転。
昭和52年(1977)	粉碎機器部門が枚方製造所より移管。
昭和60年(1985)	電子部品組立部門の発足。
昭和61年(1986)	K-CADの開発開始。
平成元年(1989)	自動販売機部門が竜ヶ崎工場へ移管。
平成10年(1998) 4月	技術開発本部電子技術センターが転入。
平成12年(2000) 4月	電装機器事業部FA営業部および(株)クボタ計装関西支社が転入。
平成13年(2001) 8月	リサイクルエンジニアリング部製造課がクボタリテックス(株)に移管。
平成13年(2001) 10月	FA技術部がFAエンジニアリング部に集約。
平成14年(2002) 2月	クボタメンブレン(株)が転入。
平成14年(2002) 3月	技術開発本部電子技術センターが転出。
平成14年(2002) 10月	事業所の名称を「久宝寺工場」から「久宝寺事業センター」に改称。
平成14年(2002) 11月	リサイクルエンジニアリング事業部の技術部、工事管理部門および、環境エンジニアリング事業部の機材課が阪神事務所に転出。
平成15年(2003) 10月	リサイクルエンジニアリング技術第3部の一部が復帰。
平成16年(2004) 10月	ロードセル課と電子機器課がFAエンジニアリング部傘下に編入。
平成17年(2005) 4月	電装機器事業部のFA営業部とFAエンジニアリング部が分割され、計量機器部と計量システム部が発足。
平成18年(2006) 5月	環境リサイクル事業部リサイクル技術部門が阪神事務所より転入・復帰。
平成19年(2007) 5月	環境リサイクル事業部門が再編され、クボタリテックス(株)が解散し、リサイクル事業ユニットとして再発足。
平成20年(2008) 4月	電装機器事業部の計量システム部と計量機器部が計量システム部に統合。
平成20年(2008) 8月	膜ソリューション技術部及び環境機器開発センターの実験設備を当所に移管設置。
平成22年(2010) 3月	電装機器事業部の計量システム部、制御システム部及びCAD部が機能別に再編成され、電装機器営業部、電装機器技術開発部及び電装機器製造部が発足。
平成22年(2010) 4月	リサイクル事業ユニットがクボタ環境サービス(株)に統合。
平成23年(2011) 4月	CAD事業がクボタシステム開発(株)に統合され転出。
平成24年(2012) 4月	組織再編により、電装機器事業部は精密機器事業ユニットに改称、膜事業は新設された水処理システム事業ユニットに編入。
平成26年(2014) 4月	精密機器事業ユニットに計測システム部を創設し、クボタコンプスの事業を受入。
平成28年(2016) 1月	精密機器事業ユニットの制御開発グループを農機技術本部ポストハーベストチームと統合し、ポストハーベスト技術部として発足。

久宝寺事業センター

2.環境方針

ISO環境方針

久宝寺事業センターの環境方針は、「クボタグループ環境宣言(2006年6月1日改訂)」に示されている環境宣言及び行動指針に基づいて策定しています。

久宝寺事業センターでは、電装機器事業部、(株)クボタ計装、クボタ環境サービス(株)のリサイクル製造部門、クボタメンブレン(株)がそれぞれ事業運営を行っています。

電装機器事業部は電子・電気をコア技術として、計量関連製品、精米関連製品等の開発、製造、販売を行い、(株)クボタ計装は計量関連製品の販売・サービス及び、金型温調機・計量混合機等の製造・販売を行っています。クボタ環境サービス(株)のリサイクル製造部門では、廃棄物のリサイクルに欠かせない破碎機・選別機を製造しています。クボタメンブレン(株)は、汚水をきれいに蘇らせる「液中膜」事業の製造・サービスを担当しています。

これらの事業組織と久宝寺事業センターのスタッフが助け合い、連携しあって、エネルギー消費の低減、廃棄物の発生抑制と分別による再資源化の推進、環境に配慮した製品・サービスの市場への提供などの環境保全活動を行うとともに、影響力を発揮できる事業全般に亘る項目について環境配慮・改善活動に取り組み、以下に示す「久宝寺事業センター 環境行動指針」に基づき、将来の地球環境の維持・改善に役立つよう、今後とも環境に配慮した企業活動を継続して着実に推進していきます。

【久宝寺事業センター 環境行動指針】

1. 環境関連法規制、八尾市をはじめとする関連自治体の条例等を遵守して、各々の事業がその事業実態に応じた環境改善への具体的な目的・目標を掲げ、その達成に向けて努力するとともに、その実施状況を定期的に評価・見直しを行って継続的改善を推進します。
2. 生産活動に伴って発生する環境に著しい影響を及ぼす項目については自主規制値を設定し環境保全に努めます。更に事業のあらゆる側面で、エネルギー効率やリサイクルのレベルアップに意を用い、全員の創意工夫により資源の有効利用と廃棄物の削減に向けた活動を行います。
3. 新製品開発やシステム製品の設計にあたっては、省資源化・省エネルギー化・有害物資の削減・リサイクル率向上・電波障害防止などをできるだけ織り込んだ製品アセスメントを実施し、製品環境負荷の低減に努めます。
4. 製造・サービス活動においては、原材料・部品及び梱包材等の補助材料、設備などの購入にあたっては、より環境に配慮したものを採用するなど、環境保全性を高めるように努力します。また、取引先企業においても、環境保全活動への理解と協力を率先して推進します。

久宝寺事業センター及びクボタグループ会社の全ての人々が、それぞれの事業にかかわる環境保全の重要性をよく考え、様々な環境保全活動に前向きに取り組むように、この方針をクボタの従業員、クボタグループ会社の従業員、久宝寺事業センター構内の協力会社の従業員に配布し、教育、啓発に活用します。又、この方針は、社会への責任を示すため、外部からの要求に応じて一般の人が入手可能なものとします。

改訂5 2010年 8月31日

制定 1999年 1月11日

株式会社 クボタ 久宝寺事業センター所長

ISO認証取得状況

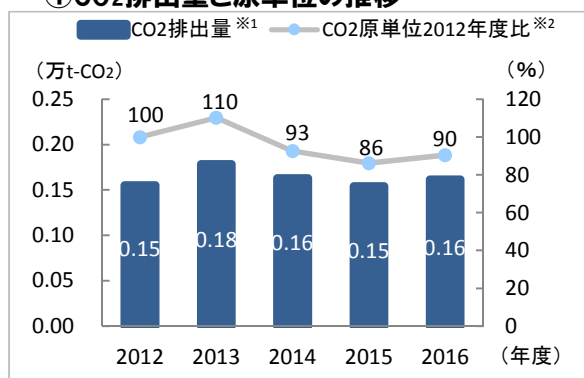
1999年3月 ISO14001(1996年版)を取得
2013年2月 ISO14001(2004年版)で更新

久宝寺事業センター

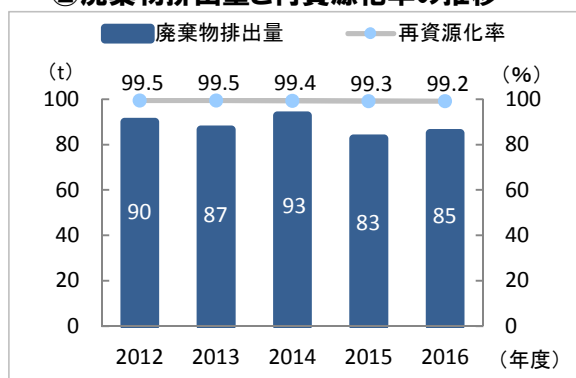
3.環境パフォーマンス

(1) 主要な環境指標の推移

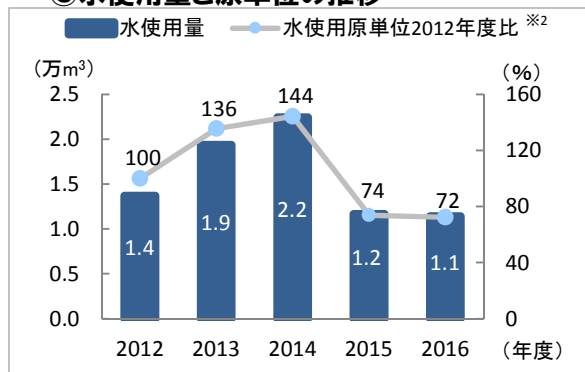
① CO2排出量と原単位の推移



② 廃棄物排出量と再資源化率の推移



③ 水使用量と原単位の推移



※1 CO2排出量はエネルギー起源のCO2排出量です。エネルギー起源CO2の算定において、電気の排出係数は各年度の値を使用します。

※2 2012年度における生産金額あたりの排出量(または使用量)を100とした場合の指数

※3 報告対象期間: 2012-2015年度は4月1日から翌年3月31日の集計、2016年度は1月1日から12月31日の集計

(2) PRTR法対象物質集計結果(2016年1月～12月)

単位: kg/年

政令 No.	物質名称	排出量				移動量	
		大気	公共用水域	土壌	自社埋立	下水道	場外移動
-	届出対象無	-	-	-	-	-	-

※ 拠点ごとの年間取扱量が1t(特定第1種は0.5t)以上の物質について集計

久宝寺事業センター

4. サイトデータ(2016年1月～12月の実績)

INPUT

エネルギー使用量	原油換算 KL	784
水使用量	万m ³	1.1

OUTPUT

エネルギー起源CO ₂ 排出量	t-CO ₂	1,616
----------------------------	-------------------	-------

排出ガス	主要ばい煙発生施設		—		
	項目	単位	規制内容	規制値	測定値
SO _x	—		ばい煙発生施設なし		
NO _x	—				
ばいじん	—				

排水量	公共用水域	万m ³	—
	下水道	万m ³	1.0
汚濁負荷量	COD	kg/年	—
	窒素	kg/年	—
	りん	kg/年	—

排水	放流先	項目	単位	末端排水口	
				規制値	測定値
公共用水域		pH	最小値, 最大値		
		BOD	mg/ℓ		
		COD	mg/ℓ		
		窒素	mg/ℓ		
		りん	mg/ℓ		
		六価クロム	mg/ℓ		
		鉛	mg/ℓ		
		COD総量規制値	kg/日		
		窒素総量規制値	kg/日		
		りん総量規制値	kg/日		
下水道		pH	最小値, 最大値	5.7～8.7	6.9, 7.6
		BOD	mg/ℓ	300	3
		COD	mg/ℓ	—	—
		SS	mg/ℓ	300	3

廃棄物排出量	t	85
再資源化率	%	99.2

VOC排出量	t	—
--------	---	---

久宝寺事業センター

5.環境トピックス

1)工場内天井照明を水銀灯からLEDに交換しました。

交換台数:262台、CO₂年間削減量:112t

2)久宝寺緑地へのボランティア活動が認められ、感謝状を戴きました。



6.環境コミュニケーション

① 地域美化活動

名 称 事業所周辺地域清掃

	日 付	参加人数
1.	2016年1月13日	25名
2.	2016年2月10日	25名
3.	2016年3月9日	25名
4.	2016年4月13日	25名
5.	2016年5月11日	25名
6.	2016年6月8日	25名
7.	2016年7月13日	25名
8.	2016年8月10日	25名
9.	2016年9月14日	25名
10.	2016年10月12日	25名
11.	2016年11月9日	25名
12.	2016年12月14日	25名



近隣住民、通勤・通学者にあいさつしながら、工場周辺のごみ拾い、雑草取りを行った。

② ボランティア花壇活動

名 称 久宝寺緑地入口花壇維持管理

	日 付	参加人数
1.	2016年6月21日	14名
2.	2016年11月21日	14名



③ 環境道場

実施内容 廃棄物の分別教育

	日 付	参加人数
1.	2016/11/8~12/26	355名

